

年の終わりに  
- 「教育ある人間」を目指して -

開倫塾  
塾長 林 明夫

1. はじめに

今回は、まずはじめに2～3回、次の英語を声を出しながらお読み頂きたい。英文を読み終えたら、その翻訳をゆっくりお読み下さい。P・F・ドラッカーの近著からの引用である。

『there's a young man I know - at least he's a young man to me; he's in his forties- he's probably the leading radiologist on the East Coast. I've known him since he was a child. He heads up the radiology, now 'imaging', department at a major medical school. I was heading to the East Coast to do some speaking, so I called him up, to arrange a get-together. His response : 'Peter ,I am sorry. I'll be out of town that week.

I'm going to Minnesota for a course.' And I asked, 'What are you teaching?' And he said, 'Peter, I'm not teaching. I'm going for a week to study new aspects in ultrasound technology. You know, I should have gone to study this last year, but I had some surgery, and I couldn't go. Now I'm way behind.' And so I think that the educated person of the future is somebody who realizes they need to continue to learn. That is a new definition, and it is going to change the world we live and work in.』

\* 以上 Managing in a Time of Great Change 296 ページ。Peter F.Ducker 著 Butter worth-Heinemann Ltd 1995年刊より引用。

『実際に私が知っているある若い人の話だ。40代にはなっているが私から見れば若い人だ。子供のころから知っている。彼は東部では放射線医学の第一人者だ。ある大学の医学部で放射線医学科、今風に言えば解像学科の科長を務めている。私は講演のために東部に行くことになったとき、電話をかけて会おうとした。ところが彼は、「ピーター、申しわけないが、その週は、ある講座に出席するためにミネソタに行っている。」と言う。

そこで、「何を教えているのか」と聞いたところ「教えに行くのではない。一週間、超音波の技術について新しいことを勉強しに行く。去年行きたかったのだが、手術ために行けなかった。そのため、かなり時代遅れになってしまった。」と言った。

つまり、今後、「教育のある人間」とは、勉強し続けなければならないことを自覚している人間のことだということになると思う。これは新しい定義だ。そして、この新しい定義のために、われわれの世界や働く場が大きく変わっていく。』

以上、「未来への決断」P・F・ドラッカー著 379～380 ページ、ダイヤモンド社 1995年9月7日刊より引用。

2. 「教育ある人間」になる必要性

1909年生まれのドラッカー氏が80歳を越えるころからだしはじめた「新しい現実」「非営利組

織の経営」「未来企業」「ポスト資本主義社会」「すでに起こった未来」などの著作のほぼ最終的な結論が、「教育ある人間」という考えではないかと思えてならない。 The educated person of future is some body who realize they need to continue to learn. (&lt;訳&gt; 「今後、「教育ある人間」とは勉強し続けなければならないことを自覚している人間のことだ。 )

「勉強し続けなければならないことを自覚している人間」をもって未来の「教育ある人間」( The educated person of the future)と定義するところが卓見であると考え。

勉強するテーマは何でもよいと考える。ただドラッカーは先に引用した部分の直前で、things are changing so fast in every field of every business or occupation (訳 : 『あらゆる企業と職業において万事が急激に変化するようになった』)のために、I think the growth industry in this country and the world will soon be continuing education of adults.(訳: 『アメリカでもどこの国でもこれからの成長産業は、成人のための生涯教育になると思う。』) Nothing else is growing as fast,whether you are taking physicians,or engineers,or dentists.(訳: 『特に医学や技術、(歯科医)の世界では、生涯教育が急成長している』と述べている。(英文、訳とも先の著作の直前のパラグラフより引用)。

医者、技術者、歯科医で最先端の技術を学び続けない人は、数年でよく勉強している人たちに追い抜かれ、職業を失うまでになるであろうことは容易に予測できる。この他に、いやしくも他人から「先生」と呼ばれる職業についている人も「勉強しつづける必要を自覚」した上で、実際に本気になって最先端の技能・知識を身に付ける努力をする「教育ある人間」になる必要がある。

例えば、日本人で自分の伝えたいことを英語で表現できる人はごくわずかである。

『この理由はなぜか。答えは極めて簡単だ。日本以外の国々では、英語を学び始める最初から、その国の母国語ではなく「英語で」授業がなされるのに対して、日本では、英語の授業が、高校 3 年の最後まで日本語でなされる場合がほとんどであるからだ。語学学習で最も大切なことは、学習対象である言語でものを考える習慣を身に付けることだ。英語の時間中日本語で授業をしつづける先生は、「英語で考える」能力を身に付けているとは考えられない。したがって、生徒にも「英語で考える」能力を身に付けさせることも難しい。「英語で考える」ことができず、「英語で授業する」ことのできない先生にいくら教わっても生徒は「英語で考える」ことができず、英語で自分の意思を表現することはできない。』

\*以上、「栃木県のレベルアップシリーズ」「英語の授業は英語で - まず先生を教育すべき」林 明夫著、栃木新聞、1995 年 10 月 31 日朝刊一面より引用。

このあと英語教員の採用試験には一時間の英語による模擬授業と、既存の英語教員のために英語「合宿センター」を学校の空教室を利用して設置し、2泊3日以上に英語のみによる合宿研修を年 10 回以上受けさせ、21 世紀がくるまでに栃木県内の全ての英語教員を英語で授業のできる先生に変身させることが、21 世紀の全県民を英語のよい使い手にする第一歩であると私は筆をすすめた。例えば、英語で授業のできない英語の先生は、今までのことはさておいて、早急に自分自身を「英語で授業のできる先生」に変身させる必要がある。そのために、「勉強しつづけないといけないことを自覚して」プログラムを自分なりに組み勉強をしつづけないといけない。

せめて週休日の 1 日は自分の職業上の知識や技能のレベル・アップのために使うべきだ。先生と呼ばれる人・組織の中で立場上リーダーになっている人であればなおさらである。ドラッカーの言う医師・技術者・歯科医などの専門職のみならず、他人従業員が一名以上働いている会社の社

長・経営幹部、先生と呼ばれる立場の人は、まず自分自身が自らの職種についての現代の問題を正確にとらえた上で、ドラッカーの言う「教育ある人」になり、学びつづける必要を自覚し、実際に先頭に立って勉強をした上で、自分の部下や生徒、身の回りにいる人たちでこれぞと思う人から「教育ある人間」に育て上げることが大事かと思う。

### 3 . おわりに

「みにむ」11月1日号の文章を書かせて頂いてから、ドラッカーの最新書「未来への決断」の日本語版と英語版を読んだので、ほぼ先月号と同じ内容になってしまい、読者の皆様には、同じ内容の繰り返しを読んで頂くことで大切な時間を無駄に使わせ申しわけなく思う。

どのような職業にも上下はないと思うが、一度この職業で生計を立てると決めた以上は、まずは職業上の知識や技術をとことん身に付け、一定レベルまで上りつめ、上りつめた後も、絶えず不足の知識や技術を身に付けるため分野別に最高レベルの先生(「幸福の青い鳥」)について勉強しつづけることこそが、21世紀を生き抜く知恵ではないかと信じて疑わない。

年の始めまでのあと1ヵ月を、新年になったらどのような勉強をスタートしようかと思いを走らすためにお使いなることを切望してやまない。がんばっていこうではないか。